



福居



福井大会キャラバン隊

九州ブロック運営研(指宿)でアピール



市同市民会館で開かれ、キャラバンの先発隊に淡島会長と小鶴氏が大会前日から鹿児島入り。当日、午前十一時からの式典に二人はブロック外の来賓として列席した。式典の前後には九州ブロックの各地区会員と名刺交換しつつ福井全国大会参加を話し交歓した。

式典の中で「商工会議所青年部全国大会について」と時間も設けられており淡島会長が全国大会

商工会議所青年部全国大会福井を成功させるべく、全国七ブロックへの参加アピールキャラバンが始まった。皮切りは九州ブロック大会。当青年部から六人が八月二十三日の九州ブロック大会に行つた。責任は極めて重大ながら楽しみ多いキャラバン旅行であった。

第五回九州ブロック商工会議所青年部運営研究会は鹿児島県指宿

に出席を呼びかけた。「おいしい水と、おいしい米、そして〇〇」と大声で福井の名産を紹介。それ以上の上の大声で「みなさんの中で福井に行つたことのある人はいますか」と叫べば、一割程の会場の会員が手を挙げた。「それでは福井の全国大会に来てくれるかな」との大声には、半数以上が思わず「ハイ」と呼応。和やかな雰囲気の中

で福井の全国大会を宣伝した。

古川、石橋、中村、松永の各氏が後発隊。後発隊が伊丹空港から機体再整備のため約一時間、出発が遅れるとの連絡が入り、式典出席を終えた先に着いていた二人は少々あわて出す。「懇談会に間に合つてくれるかなあ。」福井紹介のパンフレット、お土産を会場に運び込まなければ」と不安げに段取りをする二人。我々に当てられた宿舎は「指宿観光ホテル」と知つた二人は先程の不安な表情とは裏腹にウキウキと午後一時にはホテ



商工の窓

記録を書きかえた炎暑の日が続いた夏は、残暑も厳しかった。が九月も第二週の末ともなると何となく秋を感じる今日、岩手みちのくの旅へ。東北新幹線やまびこ号に乗車し、岩手県の玄関口一関へ向う。一関市と云えば中尊寺、平泉の藤原文化をこの目で見てくるよ、と思ひながら。空気が澄んでいる性が清々しい、「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」という歌(藤原敏行、藤原公無関係?)のよまに、ある日と云つた感じで、爽やかな到着。車窓からは黄金の絨毯を敷きつめたように稲穂が実り、山々の木々は真緑を増し覆い茂る。広く雄大に連なる山々、緑々が爽やかな感動を与えてくれるのだろうか。フランスのある思想家が「木」は「愛」を連想させるという。いつの間にか、まかれた種子が芽をふき出し、成長し、たくましくなり、枝を広げ、葉を繁らせ、実を結んで、さらに生命をまき散らす……「愛」の本質は、木の営みに似ているという。「商工」の心髄も木の営みのように。



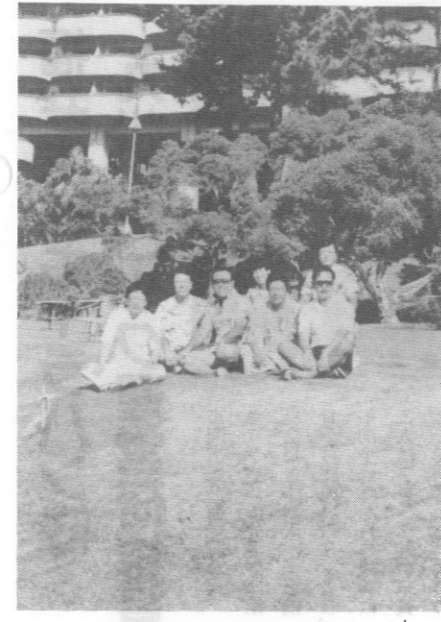
ルに向かう。東洋一のレジャーホテル、男女混浴のジャングル風呂「」のかすかな記憶を口にしつつうわさにたがわずのホテルでプールに入り、混浴でなかったがジャングル風呂で遊び、砂風呂に耐え、夕刻からの懇談会に向け英気を養う。出発遅れの後発隊の到着時間をヤキモキしつつ……。

懇親会場でキャラバン隊全員が無事に顔を合わせた時は、先の日航ジャンボ事故の後だけに背を肩をたたきながら喜び合う。福井からのパンフレット、お土産を配り、福井の話しながら立席のテーブルを福井の六人全員でまわる。福井への関心は遠方にもかかわらず、比較的高く、「行きますよ」と明かい答えを夫々のテーブルで聞き、六人もニコニコ。懇親会の宴もたけなわのころ、福井の六人が大き

雑感

な長巻を手を舞台上に上げる。その時は宴の中心人物達のように福井カラーを場内にまき散らす。福井に来てんでのー」。

西鹿見島駅に立った。夜であった。ターミナル向こうの水銀灯の光は淡く風情を込めてかすんでい。少々温泉の街に入ったような臭いが鼻をつく。駅前のホテルに行くべく駅のアーケードを外れて歩きだすと、チカチカ顔に当たる。連れの者と顔を見合す。「桜島の灰だ」。目が痛い、時として目に



も灰が入る。顔を伏せ、急ぎ足でホテルに、白いシャツに汗と灰で点々と灰色のシミを作っている。地元の新聞に、県外から、パキユームタイプの路上ゴミ収集車を借用していることを報じ、経済活動が、商店を中心にほとんどストップの状態のようすも話している。水を散布して流し、ほうきで掃き、ゴミ袋に入れて外に出して置く。新聞の天気図には桜島からの風向きを大きな矢印で示し、降灰の場所を予想。

県商青連スポーツ大会

去る、八月二十五日(日曜)昨年引き続き第二回となった福井県商工会議所青年部連合会「会員スポーツ大会(ソフトボール)」が武生商工会議所青年部が主管し、武生市家久にある武生勤労者体育センターソフトボール専用グラウンドで開催された。我福井青年部会からは、九州指宿のブロック研究会から帰ったばかりの古川実行委員長他をはじめ十三名が参加した。一回戦は不戦勝し、二回戦では武生Aチームと対戦したが、最終回の猛反撃もむなしく21対4で敗退した。結局、武生Aチームが決勝戦でも武生Bチームにシャットアウト勝ちし、優勝した。

試合後、同公園内にある、武生コミュニティセンター「柳荘」にて入浴し、同大広間にて懇親会が開かれた。表彰式で我チームからは足にライナーを受けながらも力投した山本氏と、女房役の淡島氏が敢闘賞を受賞した。懇親会は優勝カップでビールを回し飲みし大いにもり上がった。最後に、近畿ブロック大会での再会、福井大会への協力を確認し大会を終えた。

例会卓話

「福井市の防犯状況」

福井警察署防犯課長 田島与志一氏

最近の福井市内の犯罪の状況を次の三点について説明を受けた。

- 少年非行の現状
あいかわらず万引、自転車どろぼうを中心とした窃盗犯が多く、また、シンナー等の乱用も見られる。こういった犯罪をおかす少年には、「万引は盗みとは思わなかった」というような犯罪に対する認識の甘さがみられる。これも豊かな時代の産物なのだろうか。
- 刑法犯罪
郊外に夜間無人となる店舗、事務所が増え、それにつれて事務所荒し、倉庫荒し、車上狙い等の犯



罪の増加が目立つ。また、パチンコの景品交換所が襲われる事件が続発している。このような中でも、住民の通報、犯罪に対する備えによって、早期解決できた事件もあった。やはり民間協力により、社会全体でこういった凶悪事件の防止、解決していく姿勢が大切である。

- 暴力団犯罪
山口組、一和会の抗争以来、県内あるいは福井市内での暴力団の動きが活発になっている。これに対してはまず彼らの資金源となっている賭博、覚醒剤等に絶対にかかわらないこと。彼らの犯罪に對しては泣き寝入りすることなく、小さなことでも警察に通報することが必要である。

卓話後、会員から暴力団の事務所の開設に対して、暴走族の取締りに対して、無職少年の犯罪について、の質問があり、田島氏からはいずれも難しい問題であるが、これも住民との協力し合って問題に対処したいと語っておられた。

ふくいフォーラムと市民の広場

福井青年会議所と福井経済同友会共催による、「真の地方の時代」のためにと題したふくいフォーラム85に参加して、市民の広場を担当する立場から大変に有意義な示唆を受ける事ができました。

- 「産学官住」共同のあり方は
○先端産業への対応は
○新高速交通体系のあり方は

という三つのテーマに、全参加者が取り組んだ訳です。特筆すべきと思われる事を、簡潔な報告をしたいと思います。

科学雑誌「NEWTON」編集長の竹内均氏の言

①原子力発電所をたくさん持っている利点の利用、関電との協力一

- ①都市づくりは民間活力を主導して、十年構想を。
- ②若い我々が主体となって、現在を突破する事が大切。
- ③原子力関係の国際的フォーラムの必要性。

- ①地方の時代とは、中央が地方を支えられなくなった時代、地方が主体的に行動できる時代。
- ②情報は地方から創造ができるし、発信しつる、他力依存からの離脱
- ③研究型大学の形成と新しい産業の形成。
- ④臨空型産業は幻想である。

物流は、高速道路に依存しているなど。

第9回市民の広場では、過去8回の市民の広場の基本を大切にふくいフォーラムをも参考に、そのテーマである「街づくり」に更に内迫をしたいと思えます。

第5回商工会議所青年部全国大会・福井大会

活かせ英知、若さで築こう地域の経済

11.9

(土) 会場：フェニックス・プラザ

税務相談 (相続, 贈与, 法人税, 所得税)

経営相談 (会計組織, 利益計画, 予算管理)

会計監査 (内部統制, 内部監査指導)

公認会計士 勝木重三

福井市順化2-4-17
TEL 25-2561

企業訪問

総合ギフト



社長
南後 博一

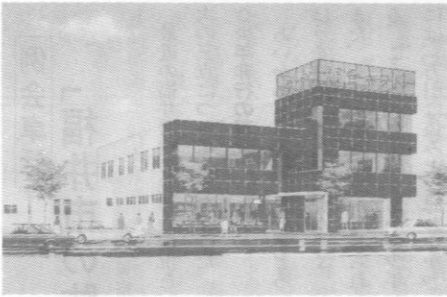
【会社概要】

本社 福井市長本町

☎五三〇五六七

社長 南後 博一
資本金 五百万円
年商 三億六千万円
従業員 十五人

社名通り、さまざまなギフト商
品を個人から企業、官公庁に販売

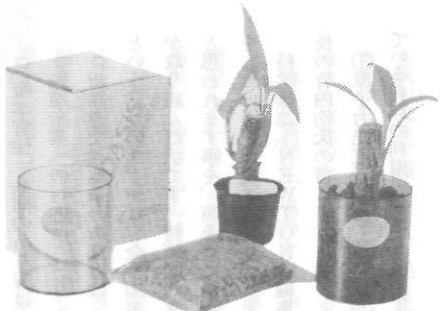


している。いわゆるギフトショップとは、一味違う品ぞろえと独自のセールス、営業展開で、着実に業績を拡大。創業以来ちょうど十年間で、三億六千万円の年商を上げるまでに成長した。

四十九年八月、南後博一社長(四)が高校卒業後十年間勤めた大手企業を退社。退職金などによる五十万円を元手に、福井市内に四十平方メートルの店舗を借り、スタートした。生み出した利益で計画的に土地を購入、資金を蓄え、昨年四月鉄筋コンクリート三階建ての現社屋、店舗(売り場面積約四百平方メートル)をオープンした。

ギフトショップを始めたのは、「自分なりの企画力が生かせるのと、さまざまな業界を相手にすることで好不況の影響を最小限にとどめられるから」。この言葉通り、同社の売り上げは、店頭での個人向けの三割を除くと、結婚式場、法人、経済連、官公庁とはほぼ等分されている。

これら多方面との取引を可能にしている最大の秘けつは、ユニークな品ぞろえ。物があふれるほど「豊かになった今、以前のようにナベやポット、食器セットといっ



た贈り物、引き出物をもらっても喜ぶ人は少ない。ギフト商品も差別化の時代。売る物にも売り方にも工夫が必要だ」と南後社長は話す。

同社の商品アイテムは、ネクタイ、衣料、ぬいぐるみ、アクセサリ、バッグ、しゃれた鏡や時計、電気製品、観葉植物などのグリーンギフトまで約七千九百種。「総合ギフト」にしかないオリジナル製品もあれば、同じ食器、陶器類でもデザート、一流の専門店に置かれる高級品を扱っている。

個性を出すため仕入れ面では、ギフト店向きの間屋、商社だけと取引するのではなく、各種専門店の仕入れルートも拡大。さらには、スポーツ用品など趣味の

な分野のものにも力を入れ、よりバラエティー豊かな商品構成を目指している。

またセールス面では、買い手の予算を十分に活用、もらって喜ばれる贈り物にするため、さまざまな商品をコーディネートして一つのプレゼントにする提案をしたり、特徴ある売り場づくり、演出で、訪れる人をひきつけようとしている。

例えば、現店舗の外観は、一見けばけばしいとも思えるほど目立つ赤。対照的に店内は、数多く商品がゆつくりと見られるようコーナー、休憩スペースを設けている。「アティック、宝石店、すし屋など全国各地のいろんな業種の店を見て回り、店づくりのヒントにした」結果だそうだ。

今春、南後社長は、全国農業協同組合連合会がチェーン展開しているギフト部門、JGC福井の代表にも就任。外商面での売り上げ増がさらに見込まれるが「本当に喜ばれるギフトを売るには、これまで以上に店頭での販売に力を入れたい」と話している。

(福井新聞より)



建築設計・監理

一級建築士事務所

中野建築コンサルタント

中野 秀幸

事務所 福井市開発3丁目3205 TEL54-3825
金津連絡所 坂井郡金津町桑原14-30 TEL73-1766